

## 「準寒冷地版 自立循環型住宅」講習会のお知らせ

都市低炭素化促進法が施行され、住宅の省エネ化も義務化される方向で検討が進んでいるなか、今後の住まいづくり、復興住宅づくりにおいて、その対策は避けて通れません。

このたび、国土交通省国土技術政策総合研究所および独立行政法人建築研究所を中心とする大学等研究機関の研究者、27の参加企業で構成される「自立循環型住宅開発委員会第3フェーズ」の研究成果に基づき、一般財団法人建築環境・省エネルギー機構が製作した「準寒冷地版 自立循環型住宅への設計ガイドライン」の講習会を開催します。

「自立循環型住宅」は、特殊な技術や未完成の技術を用いることなく、一般的に入手できる手法・技術の組み合わせで、太陽光発電を含めない状態での住宅のエネルギー消費を50%削減することを目指しています。本講習会では、省エネルギーを実現するための要素技術と設計手法の具体的な特徴や注意点とともに、住宅全体の省エネルギー効果を数値で容易に計算する方法など、基本的な考え方を中心に、そのポイントを解説いたします。

- 日時 : 平成25年2月22日(金) 10:00~17:00 (受付開始9:30)
- 場所 : 郡山駅西口ビックアイ 7階 市民交流プラザ 第3会議室 (午後は和室2)
- 参加費 : 3,600円 (テキスト代として) ※参加費は当日に申し受けます。
- 定員 : 30名
- 申込期限 : 2月15日(金)
- 主催 : (社)日本建築家協会(JIA) 東北支部福島地域会
- 講師 : 岩田 司 氏 (独立行政法人建築研究所・筑波大学大学院教授)
- 講習内容 I 自立循環型住宅の概要と準寒冷地の住宅の特性
- II 設計のプロセス
- III 要素技術1ー自然エネルギー活用技術
- 1) 自然風の利用・制御
  - 2) 昼光利用
  - 3) 太陽光発電
  - 4) 日射熱の利用
  - 5) 屋根空気集熱式ソーラーシステム
  - 6) 太陽熱給湯
- IV 要素技術2ー建物外皮の熱遮断技術
- 1) 断熱外皮計画
  - 2) 日射遮蔽手法
- V 要素技術3ー省エネルギー設備技術
- 1) 暖冷房設備計画
  - 2) 換気設備計画
  - 3) 給湯設備計画
  - 4) 照明設備計画
  - 5) 高効率家電機器の導入
  - 6) コージェネレーションシステムの導入
  - 7) 水と生ゴミの処理と効率的利用
- VI 省エネルギー効果の評価と設計における活用

問い合わせ先 : JIA 福島地域会事務局 Tel. 024-527-1083 (伊達な建築研究所 田中)

※ 申込用紙・方法は別紙をご覧ください。

※ テキストとして使用する「準寒冷地版 自立循環型住宅への設計ガイドライン」は、講習を受講しなければ、購入できないようです。

「準寒冷地版 自立循環型住宅」講習会 申込書

参加を希望される方は、下記必要事項にご記入の上、FAX して頂くか、  
もしくは下記必要事項を明記の上、メールにてお知らせください。

申込期限 2月15日(金)  
申し込み先 JIA 福島地域会事務局  
TEL 024-527-1083  
FAX 024-527-1081  
Mail [tanakanaoki@nifty.com](mailto:tanakanaoki@nifty.com)

2月22日にビックアイ(郡山)にて開催される「準寒冷地版 自立循環型住宅」講習会に参加します。

氏名.....

フリガナ.....

勤務先・所属.....

電話番号.....

メールアドレス.....

- 同時開催 JIA 福島建築家作品・日大卒業作品・日本建築学会東北建築賞受賞作品展について  
平成25年2月20日(水)～22日(金)の期間中、講習会会場と同じく、郡山駅西口ビックアイ  
7階市民交流プラザにおいて標記合同作品展を開催しています。こちらもぜひご覧ください。  
入場無料です。